

キャラクター名
緒方紫(おがたゆかり)

プレイヤー名

シンドローム	エグザイル アザトース		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	ストライクハウンド隊員
	オプション		年齢	27	性別	女
覚醒	忘却	衝動	恐怖	初期侵食率	34	%
出自	村八分	経験	異次元への門	邂逅	腐れ縁	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	31
肉体	3	1	0			4	行動値	5
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	5
精神	3	0	0			3	戦闘移動	10
社会	1	0	0			1	全力移動	20

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	2		射撃			RC	1		交渉	3	
回避	1		知覚			意志	2		調達	3	
運転:			芸術:			知識:クトゥルフ	3		情報: UGN		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手(虚無の触腕)	白兵	4r+2	0	LV+5		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
九生足	
思い出の一品	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイム	消費
生還者(リターナー)	P	N		
山脈の異変	P 好奇心	N 脅威		
親	P 庇護	N 悔悟		
邪神	P 有為	N 恐怖		
暁月茜	P 尽力	N 脅威		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 8 残り財産P: 6

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:エグザイル	2	2	メジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-LV。								
自動触手	3	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: ガード時、[LV×3点]のダメージ。								
ただれた粘液	3	3	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 被ダメ時、邪毒3か硬直を与える。1シーンLV回。								
命のカーテン	3	4	オート	至近	自身	自動	-	
効果: カバー範囲+10m。1シナリオLV回。								
崩れずの群れ	1	2	オート	至近	自身	自動	-	
効果: カバーリング。1メインプロセス1回。								
虚無の触腕	2	3	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果: 素手のデータ変更。								
蠢く触脚	5	2	メジャー	武器	-	白兵	-	
効果: 白兵攻撃のダイス+LV個、ダメージ+LV。								
爪剣	5	3	メジャー	武器	単体	白兵	-	
効果: 攻撃力+[LV×2]、ドッジ判定ダイス-1個。								
異言	★	-	メジャー	視界	単体	-	-	
効果: 発狂者とコミュニケーション可能。								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

一人称:「俺」、二人称:「お前」。

生まれた村は、女しか生きることが許されていなかった。村の存続のためだけに男を拉致して女とまぐわせば、子を孕めば男は速やかに処分される。孕んだ子が男であれば殺し、女であれば村の人間として育てる。そんな村。しかし俺の父親は生きている。生きていると知っている。彼に情を抱いた母親が、彼のことを逃がしたからだ。

それが村の人間に気付かれたのは10年ほど前のこと。当然村の人間は母親の所業を許しはせず、彼女は俺の目の前で鬻り殺されようとしていた。母親を助けなければならない。全身の血液が湧きたつような感覚と、ぐらつく思考の片隅に残った使命感。そこから先のことは、何も覚えていない。

気が付けば俺は血に塗れた母親を抱きかかえ、たった二人、村の外へと逃げ出していた。ありとあらゆる伝手を利用して、俺は父親の居場所を突き止め、そうして両親は再会を果たした。

あの忌まわしき村は未だ、絶えていないらしい。村の実情を知りながら外の世界へと逃亡した俺たちのことを、村の人間は決して許しはしないだろう。いつか俺たちを始末しようとする追手がやってくるかもしれない。俺は守らなければならない。そのために、強くあり続けなければならない。

母親以外の女が嫌いだ。村のことを思い出すから。それでも、生まれた時から刷り込まれてきた本能が、女には逆らうと告げてくる。だからせめて、自分だけは「女であること」からも逃げ出したかった。恰好だけでも、男として生きていたい。